

玉川上水の遊歩道から流れる温かい音色

古楽の小屋

『ロバハウス』って何？

四季折々に豊かな表情を見せる玉川上水沿いの小道。そこに、淡いオレンジの色みを帯びた不思議な建物が一軒。その帯だけを切り取ってみるとまるで、おとぎの国に迷い込んだかのよう。建物からはあまり聞きなれないけれど、どこか懐かしく、素朴で温かな音色が聞こえてくる。この建物の名は、『ロバハウス』という。
写真：野口祐一



『ロバハウス』という不思議な建物のこと

「このあたりは、武蔵野の自然が色濃く残っていて環境がいいでしょ。前の遊歩道なんかとても気持ちいい。それが気に入って、ここにロバハウスを建てたんです」。そう話すのは、松本雅隆さん。松本さんは、古楽器を使って中世・ルネッサンス時代の音楽を演奏する楽団「カテリーナ古楽合奏団」と子供達に音楽の楽しさを伝える楽団『ロバの音楽座』の代表を務めている。ここは、両楽団のけいこ場であり、月に一度のライブ会場であり、松本さんの住まいでもある。

ロバハウスができたのは、1992年のこと。当初は単なるけいこ場兼住居のほかなかった。けれど、玉川上水沿いの緑豊かな景観を眺めていたら、「子供達にも足を運んでほしい。そして、子供達の想像力をかき立てる、おとぎの国のような建物にしたい」と思うようになった。「ここを訪れた人が、夢を見ているような感じが味わえたらいいなあ」

と。楽団で使う古楽器は、木など自然素材を使った温かみのあるものばかり。そして、音色は柔らかく温かい。だから、建物の素材もできるだけ自然の素材を使い、室内の壁にも珪藻土を使うなどして、「音」と同じように素材で温もりのある空間を造り上げた。

道行く人も、きのこのような一風変わった外観の建物に興味津々。「ここはいつたい何？」と、のぞかれることもしばしば。

ロバハウスで開かれる月に一度のライブは、これまでに100回以上を数えた。大きなホールでのコンサートとは違い、手を伸ばせば、そこに「音」があり、音を、メンバーの息遣いを、身体で感じる事ができる。樂しげに身体を揺らすメンバーに合わせて、見ている方も自然と身体が動き、思わず笑みがこぼれる。「この空間で聞きたい」と、遠方からわざわざ足を運ぶ人々が多いというのも、自然なこと。皆、この素材で温もりのある空間と混ざり合う、「音」の世界との一体感がたまらなく好きなのだ。

ロバの音楽座
プロフィール
1973年松本雅隆氏により中世・ルネッサンス音楽を演奏する、カテリーナ古楽合奏団結成。1982年、子供達に音楽の夢を運ぶべくロバの音楽座結成。1988年『愉快なコンサート』が音楽団体としては、はじめて厚生省中央児童福祉審議会の特別推薦文化財作品に選ばれる。1998年、『ジグの空想音楽会』が東京都優秀児童演劇選定優秀賞受賞。2004年からNHK教育シヨートアニメ『パンツぱんくろう』、『からだであそぼ』などの音楽を担当

Data
立川市幸町 6-22-32
☎ 042-536-7266
http://www.roba-house.com/
交通：西武拝島線玉川上水駅より徒歩8分
MAP：P90 G-1
※月に一度ロバハウスにてライブを開催。
詳細はホームページにて

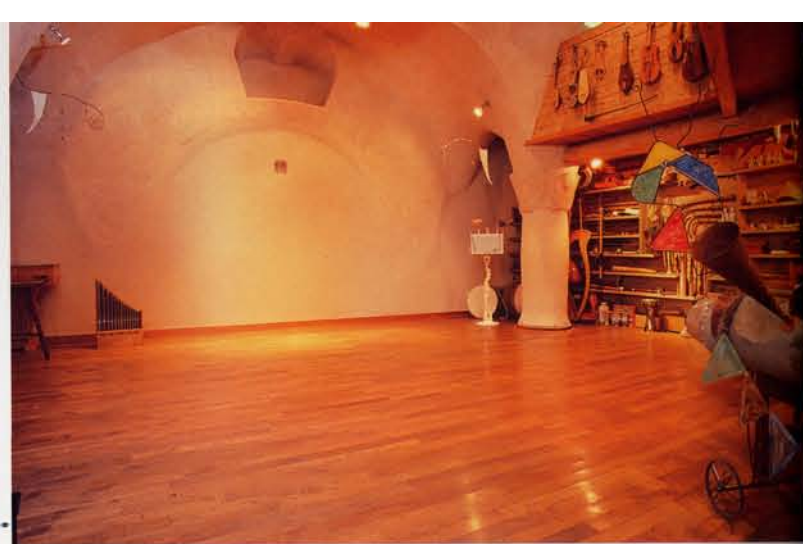


壁や棚には、普段お目にかかれないような古楽器がいっぱい。現存しているものはほとんどないので、絵画や文献を元に復元される。松本さんが長年にわたって世界各地を回り、そこで出会った職人さん達の手で作られることが多いとか



直川 昭島

Tanaka & Akashima
あきしま たちかわ



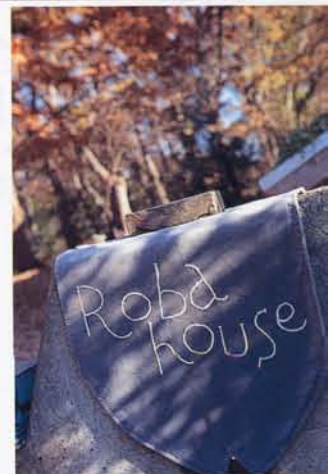
半地下がけいこ場で、ここでコンサートが開かれる。壁は珪藻土を使った、温かみのある空間



皆楽しそうに楽器を奏でる。ロバの音楽座に決まりはない。自由楽しく演奏する、ということが大切だ



玉川上水駅を下り、上水沿いの遊歩道を行くと現れるロバハウス。カテリーナ古楽合奏団とロバの音楽座の2つの古楽合奏団が活動をしている。ひと際目をひく外観は、知らない人が見たら「何をやっているの?」と不思議がるのも無理はない。上階が松本さんの自宅。1階、半地下が楽団のけいこ場と事務所になっている。ここでは月に一度、ライブを開催。ライブでは、通常のコンサートと違い、他ミュージシャンとのジョイントや過去には谷川俊太郎さんなどミュージシャン以外の人々とのジョイントも開催。ライブには子供から大人まで、北は北海道、南は沖縄から人々が集まる



ロバの音楽座の中心メンバーは5人。左から長井さん、代表の松本さん、上野さん、冨田さん、大宮さん。うち、松本さん、上野さん、長井さんはカテリーナ古楽合奏団のメンバーでもある



ロバの音楽座という古楽合奏団のこと

松本さんが主宰する楽団の一つ、ロバの音楽座。子供達のために音楽をより身近に、素朴な音の世界を親しんでほしい、そんな思いの元1982年に結成された。「子供達に」とはいえ、音楽だけでなく、仮面劇なども織り交ぜた公演は、大人のファンも多いとか。使っているのは中世・ルネッサンス時代の古楽器と空想楽器と呼ばれる、一見ナンダかよくわからない、奇抜な楽器。古楽器は、当時のものはほとんど現存していないので、忠実に復元したものが使われる。空想楽器は、ダンボ

ールや板、ホース、空き缶、新聞紙、サランラップの芯など、身近にあるものを使って楽器を作る。「日ごろから、こんなものを作ったらどんな音がするんだろう」と考えているんですよ」と松本さん。人によっては「ゴミ」しか見えないものだって、松本さん達の手にかかれば、手品のように立派な楽器に変身する。「ライブにきた人は皆、耳を澄ませて聞いてくれます。嬉しいですね。これからも、古楽器、空想楽器、そしてロバハウスという空間を使って、人の五感を刺激するような、心にしみ込んで行くような、そんな音楽を届けていきたいですね。」

古楽器と空想楽器

セルパン
セルパンとは“蛇”を意味するフランス語。曲がりくねった木製の胴体にはリコーダーのように指穴が開いている。マウスピースから息を吹き込み演奏する



ポルタディーヴォオルガン
ヒザの上に載せて演奏する小さなオルガン。左手でフィゴの操作をし、右手で鍵盤を弾くと、パイプに空気が送られてメロディーを奏でる構造



ハーディーガーディー
ハンドルを回すと木の円盤で弦を擦り、鍵盤で弦を押さえて音が鳴る仕組み。リズムカルな音で伴奏する。今でもフランス、ハンガリーなどの国の伝統楽器として使われることも多いとか



ロバの音楽座で使われる

ガランピーポロン
“ガラン”、“ピー”、“ポロン”の3つの音を鳴らすことから名づけられた空想楽器。本体はダンボールと木の板でできている



ジューズハープ
口にくわえて演奏する口琴。日本では「びやばん（琵琶笛）」と呼ぶ。枠を唇で挟み、先端の突起部分を指ではじくと音が出る仕組み



パンパイプ
ギリシャ神話に出てくるパンの笛。“パン”とは、ギリシャ神話に出てくる牧神のこと。葦の閉管を十数本組み合わせた素朴な楽器。伸びのあるキレイな音色



リコーダー
最も身近な古楽器。ルネッサンス時代のリコーダーは円筒管で、柔らかく豊かな音色。ソプラノ、アルト、テナー、バスなどの種類があり、小さいものは10cm、大きいものになると2mもある

プサルテリー
“弦をかき鳴らす”という意味を持つ、中世の箱琴。ヒザの上に置き、金属の弦を鳥の羽や指ではじいて演奏する。繊細な音色を持つ。即興演奏に適している

ロバの足
細い木に大小さまざまなカンなどをつけた空想楽器。カンを打ち鳴らしたり、木を床に打つなどして演奏する



611
バケツやアルミの筒などでできた、管弦打が合体した空想楽器。「ジグの空想音楽会」の初演日（6月11日）に使われたことからこのネーミングに

情報情報

「ぼかばかば」ロバの音楽座。数々の古楽器、世界の楽器達が織りなす、午後の日だまりのような温もりのあるCDだ。2,500円

「音さがしの小箱」作：松本雅隆 音楽：ロバの音楽座。世界の音に耳を澄ます。ロバワールドを一つの小箱に収めた音の玉手箱。3,500円